



フリーターユニオン福岡 の通信誌

≡≡≡^(*fuf) / NO.26

特集①： ぼくらの70年戦争

特集②： E社案件、勝利報告！

特集①

ぼくらの70年戦争

僕らにとって、政
（マツリゴト）や戦
（ウサ）の場所とは、
どこなのだろうか？

一連の安保関連法案
をめぐる「政治」は、
国会議事堂という現実
から切り離された空間
での下品なコメディを
見ているようであり、
それを批判する人々の
声も、国会前「デモ」
が中心地として取り上
げられた。

けれども、それは本
来は永田町や霞ヶ関よ
りもこちら側の生活世
界に関わることではな
いか。

戦争」も然り。す
でに僕たちの多くは
万人の万人に対する
「闘争」に追い込まれて
いる。職場での不当な
労務への強制、国の強
制へと否応なく巻き込
まれていく回路、国策
から見捨てられ、うち
捨てられた連中の非人
道的、非人間的な境遇。
戦争だっけ？そんな
ものはとくに始まっ
てるぞ」

僕らは戦後70年、直
接的な戦争からは無縁
なようであり、実はこ
うした戦争状態にとっ
ぱりと浸され続け、感

覚が麻痺するほど恭順
させられてきたのでは
ないだろうか。この国
の世論は、国家間の合
法的な殺人である戦争
への反対は多くても、
国内での合法的殺人で
ある死刑については圧
倒的多数が賛成であり、
そのことに矛盾も感じ
ないようだ。

僕らは、永田町で語
られる現実ではなく、
僕らの現実をもう一度
確認して、彼らをこちら
側へ引きずり下ろし、
外野の彼らにもよく見
えるようなマツリゴト
をしようではないか。



狂気 (↑戦争) へなだれ込む前に

だけもりまき

日々安保法案に関する情報がマスメディアやネット上から垂れ流される状況にあつたが、半径3メートル内の日常では話題にできず黙殺されているのが大方のこの日本社会の残念な空気だろう。ヒロヒト天皇の死さえ知らない学生世代が、「就職活動もしないといけない時にこんなことしたいわけじゃない」と国会前の抗議行動で「戦争反対」と叫ばねばならない戦後70年を思い知りもした。そんな平和ボケ状態も含めて、この社会が戦時下にあることを確認することから始めなければならない。「戦争」を前提とした安保法案に道理などあるはずもなく、平和のための戦争とは労働者を虫けらのように蹴散らして生き延びる一部資産(資本)家に拘泥するものたちの陰

謀でしかないことは、歴史が証明している。

国家の命令により人が人を殺す戦争とは狂気であり、日常から狂気へとなだれ込む一歩手前で掃いて捨てられる側にいるわれわれフリーターユニオンのそが、戦争を止めなければならぬ。なぜならすべての戦争・侵略に必要な武器のみならず人間が生きるためのすべてのものは労働者の賃労働によって生み出されるからである。とはいえその闘いのハードルは高く遠く、今や労働の現場そのものが崩壊寸前の戦時下だ。フリーターユニオンに集うものは、企業から排除され(解雇)、不安定、低賃金、長時間労働といった無限の歯車の中で「働いて生きること」に絶望し、群れる

ことも苦手でわれ先にと声を上げることもできない。それは隣で働くものとの間に厚い壁が立ちただかつてのように思えるからだ。その厚い壁に塗りこめられたものがなんであるのか、その権力的構造を知ることこそ、隣にいる人とつながる近道だ。日常的には、清掃や精肉パックづめ、老人介護や看護業務、牛乳配達やテレアポをし、働けパッシングに脅えながらも、目の前の社長という資本と向き合うことからしか始まらない。職場や地域で絶望しそれをこしらせてしまうことで人は日常の狂気へと陥り孤立し、ひたすら権力の餌食になり、そのようにして狂気へ向かう。そのぎりぎりの状態から這い出しこじれを戻すために、掃き捨てられる側の正義を貫く道を模索し

つづけることだ。

それは国会前行動やデモといった「祭り」とは別の「マツリ」だ。日々の賃労働の場に「支配」されず、自分の労働時間は自分で支配する、消費を露わにしたマスメディアやネット情報に支配されないことだ。それが、すなわち消費し、消費される構造から抜け出す一歩であり、自らの日常を生み出す営みへと繋がっていく。戦前から連綿と続く資本、財閥、ひいてはマスメディアの戦争責任を問わねばならないことを、もう一度心することであり、この戦時下において、未だ「負け」を総括せず、反省せず、同じことを繰り返している暇はない。逃げ場のないわれわれのできることをやるしかない。

日本はいかにして滅ぶか 丸田弘篤

安保法案をめぐる一連の動きに対して、全くと言っていいほど気持ちが動かされることは無かった。実際に一度もデモにも抗議行動にも参加しなかった。それは多分、安保法案が実のところ本当の危機ではないからだろう。安保法案が脅かすものは「平和国家日本」、70年の平和の伝統という幻想である。安保法案の賛成派がありもしない中国の脅威に怯えるのであれば、反対派も賛成派もどちらも幻想に囚われているという意味では同じ穴の貉である。

現実には日本という国は、滅亡に向かっているし、安保法案はそれを加速させるものである。日本が軍事行動を起こすならば、それだけ、この国は滅亡へと近づいていく。なぜか？

それだけ日本を攻撃する根拠が増えてくるからである。さすがに、他所に軍隊を出していない国を攻撃するのはなかなか難しいが、他所に軍隊を出して人を殺している国であれば攻撃するのもそれだけハードルが低くなるというものだろう。

ちなみにアメリカにとっては、日本が滅亡することは好都合なことである。なぜならば、日本はアメリカにとつての最大の債権国であり、日本が滅びればアメリカの借金はチャラになるからである。だから、実際の有事の際に日本をアメリカが助けるなんてことはありえない。アメリカは日本を見捨てるだろう。

では実際に、どのような日本滅亡のシナリオがあるだろう

か。一番可能性が高いのは、原発事故の収束がその口実となるものだ。日本は実際に、原発事故の収束が行えず放射能をダダ漏らし続けている。こんなことがいつまでも許されるはずはない。とくに、太平洋に対して放射能をダダ漏らしているわけであるから、沿岸諸国はいずれは日本を袋叩きにする時が来るだろう。その時には、原発事故の収束がなっていないということで、軍事介入を伴う日本の国家主権の停止がなされ、その後国連の常任理事国による分割統治か何かが行われ、それらの主導のもとに収束作業に当たる時が来るのではないか。

これらは、実際には集団的自衛権が行使された後に、行われることになるだろう。アメリカ

力が日本をけしにかけて軍事行動をとらせ、名実ともに日本を軍事大国として世界に認識させる。それは中国にとつて、あるいは韓国や朝鮮民主主義人民共和国にとつては、日本軍国主義の復活にはかならず、それらの国々との緊張が高まることとなる。その時にアメリカは日本のはしこを下して、原発事故の収束を口実に日本叩きを行うことで、上記のような日本の国家主権の停止と分割統治が行われるのではないか。

そうなった時には、日本人は国を喪い、また、世界中から放射能をまき散らした民族として白眼視されて過すことになるだろう。それはもう仕方がない。

皮膚感覚としての戦争

水上龍介

敵をロックオンして追尾するミサイルとか衛星軌道上からの索敵とかの話
を最初に聞いたときには驚いたものだが、現代のリアルな戦争を正確にイ
メージする事は軍事の素人にはいよいよ難しくなっている。

ただ今後、無人の爆撃機や戦車、ロボットの兵士等が戦場に投入されるよ
うになればますます人殺しの実感（ストレス）を感じることなく大量殺戮を
行うことが可能になるだろう。

戦場のトラウマで精神が壊れてしまう兵士の数を減らすことが出来るわけ
だし、殺す側にとっては人道的な技術革新（クリーンテクノロジー）なのか
もしれないが、ではルに殺される側はどうだろう？

たとえば昨日までタバコの吸い殻やペットの糞を委棄する事さえためらわ
れる程清潔だった街に今日は、ちぎれた指やつぶれた眼球や毛髪の生えた頭
皮が散乱している。自然な生活臭や体臭さえ強迫的に恐れて、汗や消臭剤に
気を使っていた人たちが今は凄まじい腐臭を放ちながら道や壁にべちゃりと
貼り付いて汚汁を垂らしている。

皮膚の半分が炭化して灰色にひび割れ、焼け残ったもう半分が赤紫にただ
れたそのプロプロの汚らしい骸がもしかすると貴方の家族や恋人かもしれな
いということ。

そして爆風に吹き飛ばされた貴方自身の身体はいろんなところがちぎれて
いて黄色い脂肪にまみれた神経や腱が白く垂れ下がっている。皮膚は真皮に
達するまで断裂してまくれ上がり、露出した筋肉が貴方のお気に入りだった
シャツを巻き込んでいて、もう外科手術を施さなければそれを脱ぐことはで
きそうにない。歯の半分が折れてしまいそのうちの半分が、口蓋や膨れあ
がった唇に突き刺さっていて吐き出す事も出来ない。

悪趣味かもしれないが戦争のリアルとはつまりこういうことなのではない
だろうか？戦争は形而上学的な問題ではないということだ。戦争を抽象化す
る事は出来ないし、またするべきではない。戦争は技術開発の為の実験でも、
国家間の駆け引きでも、経済ゲームでも、まして生物としての本能でもない。

皮膚感覚としての戦争とはただただ形而下的に汚くて臭くて熱くて、そし
て想像する事も出来ない程痛いだらう。

戦争について考える時、あるいは語る時には常にこの感覚をベースに持ち
続けるべきだ。なぜなら兵器がどれほどハイテク化し、軍事が洗練されたと
しても戦争の本質は変わらないからだ。戦争とはつまるところ人体の破壊で
ありその尊厳の破壊だ。70年前と同じように。

夏の終わりにあの白い大きな建物の中で、無味無臭の抽象的な戦争を論じ
ていたあの人達の中に、果たしてこういうリアリティはあったのだろうか？

戦争経済と今後の課題 見谷元

安理法案が可決成立して、親を持つ子供の世帯が自衛隊や軍隊に徴兵されて戦争に追いやられると危惧するが自分はずでに働いていない状態で戦争のことを気にするのはなんだかよく分からない出来事である。

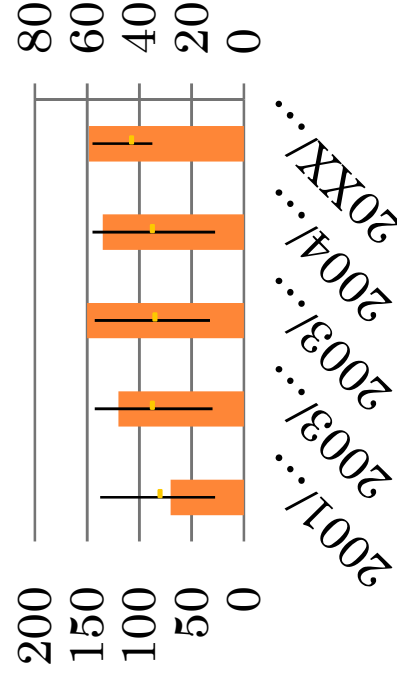
働いていない人間からすれば生まれた時からすでに戦争状態であり、受験戦争、教育格差、就職氷河期、ゆとり世代を渡り歩いてきて戦争がどうかというのはどうかと思う。

戦争についてテレビで戦後70年代のことについて特集が組まれるが戦争を経験したことがない世代が戦争法案などと騒いだところで現状が変わるわけではない。

日本で仮に強制的に徴兵制みたいなことが復活して北朝鮮や中国、イラクやアフガニスタンみたいなところに強制的に武器を持って戦うことになればそれを非公開に軍事的に戦う事態はありえるのだろうか。

自分の考えだが後方支援や物資調達補助くらいはもしかしたらあるのかもしれない。

戦争を知らない世代が言うのはなんだが、強制的な武力行使が起こることがあれば昔の奴隷制度と何ら変わらないのではないかと思う。戦争が起きるかどうかという議論も大事だが生まれた時から収入格差や教育格差をいかになくすことが大事なのではないかを感じる。機会の平等があるようでないのが今の日本社会の現状ではないかと考えている。



相互理解。大なり小なり戦争も含めた様々な争いことや揉めことの話
を聞くたびに人は何故、自分の立場
ばかりを主張して相手の立場を理
解しようとしなないのかと考えます。
(自責の念も含めて。)

70年前までにあつたあの戦争の
ことも考えると「もつと早く何らかの
かたちで妥協案を見出だして過ち
を防ぐことが出来なかったのだらう
か。」という思いを抱くこともあります。

それから現在では安保法案の問題
ばかりでなく三つ巴戦(アサド政権、
反政府勢力、イスラム国)の様相を呈
しているシリア情勢。そのシリアから
EU加盟国(約40)万人以上もの難
民が流れてきているという問題もあ
ります。

日本が無条件でアメリカが掲げる
大義に追従する以外に選択視がな
いかにように国会内で法案が審議さ
れてきたことも問題視されるべきで
すがシリアに目を向けると反政府
勢力を支援するアメリカがアサド
政権やイスラム国に対し本格的な軍
事介入や開戦を選択するのではな

くロシア(アサド政権を支援。)や国
連(シリア国内に向けて停戦を呼び
かけている。)と連係をとりイスラム
国側に撤退を求めながらも対話政
策で中東アフリカ諸国全体が平和で
安定した社会が構築されることを
切に願う次第です。

シリアのアサド大統領がイスラム
国への空爆を続けるアメリカを非難
しながらも対話を求めていると聞き
ます。「紛争の原因をつくったお前が
言えた義理か。」という思いもあ
りますがオバマ、アサド、プーチンによ
る三者会談が実現して最善の解決
案を見出だせるかがカギになると
思われます。

話は変わりますがフリーター三
オンも此まで様々な労働相談を受
け私も何人かの相談者とも言葉を
交わしてきました。相談者の方達の
話を聞くたびに職場内での人間関
係はどうだったのかなど様々な思い
を抱きます。勿論、事情や状況は人
其々なのは言うまでもないでしょう。

私事ではありますが私も以前はヤ
マト運輸福重支店にて早朝仕分け
業務を勤め現在ではスーパーのタイ

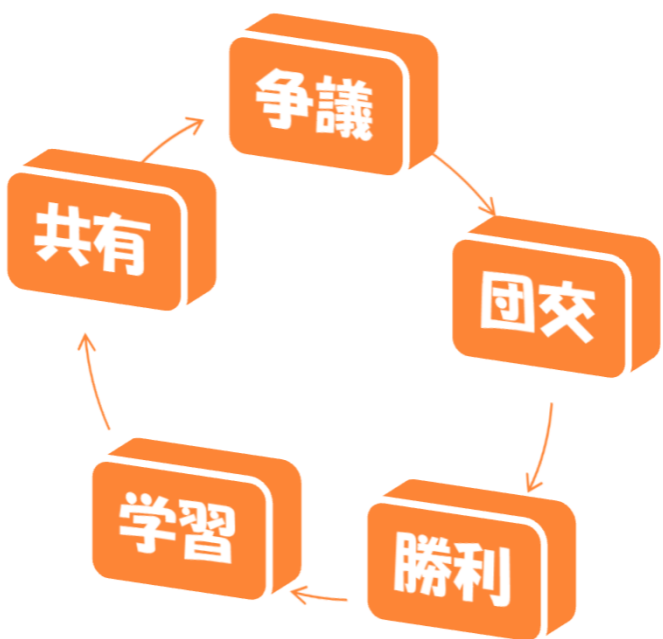
レックス伊都店内の肉香房龍伊都店
(精肉部担当。)にて夕刻時のみ毎月
約20日ほどの出勤で主に職場内の清
掃業務に励んでいます。

職場内には自己の優越感を満たす
ために他者に劣等感を抱かせるよ
うな言動をとる方達もいれば職場
内での人間関係を重んじ意思の疎通
を大切にされる方達もいます。私も
意思の疎通の大切さを考えている人
達に助けられてきたからこそ様々な
仕事を続けられてきたという思いが
あるだけに尚更、以上のような考え
を抱いてしまいます。

最後に つだけ。映画俳優の千一
ガン・フリーマン氏がある若手の映画
監督から「私は今後も多くの方達か
ら評価される作品を一本でも多く
制作したいと思っています。そのため
にはどうすればいいですか。」という
質問をされて「聞きなさい。」という
言葉を返したそうです。

一人一人が“話し上手”、“聞き上
手”になることは大切なことと思
われます。コミュニケーションが世界
平和とつながる。いかがでしょうか。

戦争も騒動争議もコミュニケーション 不足が原因か 江藤成一



- E社と2回の団交を行った結果、本年7月に無事解決。和解内容は、離職票を会社都合に書き直させ、多額の解決金を獲得する等、ほぼ全面的な勝利といえるものでした。
- さらに8月、今後の組合活動につなげていくため、本事案の振り返り学習会を開催しました。
- 学習会の内容も好評だったのので、11月には①当事者の声、②ポイントになった争点、③学習会の感想の3本立てで勝利報告を行いました。

特集②

E社案件、勝利報告！

闘いを終えて… 進藤治

この闘争は、私個人的に初めての団体交渉でした。第一回団体交渉には会社での過剰労働や過剰とも思えるストレス下での労働の記憶から団体交渉に向かう精神力がなく。家で養生をしており、身体を回復することを重視して生活していました。私の訴えとしては、超過勤務による未払い賃金、過剰労働による急性ストレス症候群（診断書あり）になった事、パワハラについてを提示しました。

団体交渉には、母と弟が代理人として参加しました。

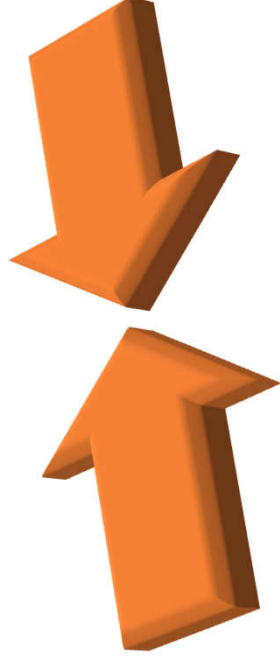
第一回団体交渉を終えて母と弟は、伝えるべき事は、伝えた。「社長は、誠実な人だった」と嬉しそうに話してくれました。しかし、その後の会社からの回答書には、団体交渉では認めた内容をうやむやにする内容で、まるで自分が働いて来たこ

とがなかったかの様に感じました。私は会社から離職している身でしたが、社長がこの事を繰り返す様であれば、会社で働く労働者が搾取され続ける事になることを察しました。以上の事から私自身が第二回団体交渉を開催する事を決めました。

第二回団体交渉では、私の訴えを超過勤務による未払い賃金に重きを置いて交渉しました。

ここで、思いの丈を話すことが出来た事がポイントだったと思います。

最後にE社との団体交渉を最後まで支えてきて頂いたf R Yの皆さんあつての勝利です。特に担当して頂いた武田さんには、未払い賃金に関する計算や闘争経緯からのアドバイス等があり交渉に向かうことが出来ました。



今回の争点と勝利のワザ

今回の紛争の争点は、未払い残業代とハラスメントの2つであった。ハラスメントに関しての評価は難しい。解決金のような形を取るにしても、相場がいくらなどという目安がないからだ。反対に、残業代は評価がしやすい。働いた時間数に割増率を掛ければ、ある程度の金額は算出できるからだ。そのため、今回は解決金での解決であったが、その内訳の多くは残業代だった。残業代算出で主に争点になるのは「何が労働時間か」という点が殆どである。

当初はタイムカードがなく、本人の主張のみが頼りだった。裁判例などで本人の記録のみが労働時間と認められた例はあるにしろ、今回は団体交渉なので、労使で納得がいく妥協点を作らないといけない。そのため、ほかに何か決定

的なものがほしかつた。そこで出てきたのが、1日の作業終了時に書く日報であった。その日報を、メールで送信した記録が残っていた。結果的には日報の送信時間について相手方が明確な反論をすることができず、こちらの主張で解決への妥協点が導かれることとなった。圧倒的優位で話が進み、解決へと繋がった。

今回の当事者は、タイムカード等の客観的な証拠を事前に準備していなかった。ネット普及とともに、証拠の取り方を指南するサイトが増えたものの、実際に紛争を見越して毎月自分のタイムカードをコピーしたり、日記をつけたりする人間がいたいどれほどいるだろうか。多くの方は証拠なんてとらずに過ごされているだろう。そして忠誠を誓った会社に裏切ら

武田啓詩

れても、何もできずに泣き寝入り強いられることとなるだろう。

そうならないためにも日ごろから記録はきちんと取っておくべきであるが、今回のように記録をしていなくとも、日報、ログ記録、入退館時間等で労働時間を主張することはできる。労働時間の把握は会社の義務とされているため、タイムカード等がない場合は本人の主張が優位となることが多い。あいまいな記憶だったとしても自分が拘束されている時間を思い出し、後づけで記録することも、重要なことである。

また、付け加えるなら団体交渉の場で会社側がうっかりサービス残業の存在を認めてしまうことも考えられるだろう。

労働時間は客観的に定めるとす

る説が有力ではあるが、客観的に定めるといのが具体性に欠けるため、少しわかりづらい。大雑把に言えば、自由に使えない時間

(拘束時間)と考えてよい。そうすると日報は1日の作業が終わった後の義務であり、拘束される時間であるので、これをもとに労働時間の主張ができる。今回はこういうロジックで進むこととなった。

お世話になった会社に訴え出ることは非常にハードルが高いことではあるが、一人でも多くの勇気ある行動が、現在および将来の労働条件向上に寄与することを信じて、一人でも多くの勇気ある行動を応援するものである。

振り返り学習会で得られたこと 進藤清張

今回、勉強会をして感じたこととしては、労働問題を解決していくことの積み上げをしていくことが、これからの未来を生きやすい社会にしていくことになることです。やはり、仕事を一所懸命にしていると、大切なものが見えなくなると、いつの間にか苦しい環境に身を置いてしまうでしょう。その根本を日々の活動から見つけ出し、解決のために動くことをやっていくことがとても大切だと思います。

また、印象に残ったこととしては、固定残業代は違反であることです。週⁴⁰時間、1日8時間の労働を禁止されていますが、決まりを守れば労働させても良いそうですが、雇い主と対等に話し合いができるように、労働組合を組織することが大事であると思います。また、会社の奴隷になりがちになっている労働者が残業でひひひ働いているのに、雇う側人間は労働者から搾取してしまうわけです。労働者の苦しさを分け合おうとは思わないのかなと思います。まず、雇用問題は、その辺の共感の不足や、パワハラ、マタハラ、セクハラ等の労働問題を改善させて、より良い会社と

の関係を築いていく必要性を感じました。

社会的な問題として、働いても貧困になっている人が多くいることです。まず、弱者にばかり税金をとるのはよくないと思います。お金を沢山持っている人が、もつとお金を回していかなければ、社会のお金の循環が進まなくなるのは、わかりきったことです。どんどんお金を循環させて、私達が働きやすい環境を作る社会にしていきたいですね。

また、身体や心が貧しいと、よい働きには繋がりません。なので、私達がまずどのように生きていきたいかを明示して、より良い環境を作り出すことを自らが主体的に会社に働きかけていくことが何より大切だと感じました。

しかしながら現在の会社の体質が変化を見せて、あの手この手で、私達労働者を締め付けます。その一つにペッパーという人口知能を備えたロボットが、サービス業界に現れ、人件費削減が行われようとしているようです。このペッパーというロボットは、頭が良くて人間の気持ちも理解す

るようです。私達労働者にとっては、ライバルみたいな者だから、最大限に注意が必要です。いや、この機会に新しい生き方が必要だと私は考えています。もつと働き方の多様性を主張していくべきで、そのための労働組合であるし、社会であると思います。ということは、何かおかしいか会社の決まりを見返していくことが必要であると思います。また、会社の状況を把握していくことが重要です。何度か同じことを言いますが、会社にいるだけで、嫌になることはあると思うが、これを改善しようとするかは個人次第であると思います。最近それを強く感じます。

行動し始めれば、何てことないかもしれないから、とりあえず、組合に入って、様々な視点から、会社の不満をなにかしらの形で表現することが大事だと思います。

本題からずれましたが、まずは¹で社会問題を話し合う環境をつくり出していきたいでしょう。



◆通信誌購読料及び活動へのカンパのお願い◆

- 年間の通信誌費とともに、fufの活動に賛同のカンパなどしていただけたら、ありがたいです。通信への感想なども是非お願いします。楽しみにお待ちしております。
- 通信費： 年間一口1000円
- 振込口座
名称： フリーターユニオン福岡
口座番号： 01710-4-92028
- 有期雇用でも、正規社員でも、ニートでもヒキコモリでも組合員になれます。組合費はだれでも月2000円。
- 働くこと、働いていきること悩んでいる人、いつでもご連絡ください。
- 第2、第4土曜日は、午後7時から定例会議です。お気軽にお立ち寄りください。
- 電話、メール、いつでも相談や加入のことなど受け付けています。電話番号やメールアドレスなど、より詳しい情報については、フリーターユニオン福岡 (fuf) のブログやホームページをご覧ください。

編集後記 今回の特集について、組合内で検討し原稿依頼をした後に、安保関連法案がスススッと通ってしまった。／執筆者のなかには内容を修正する必要があるものも出てきたが、心配したが、最終的に出てきた記事を読んだ限りでは、そんなことはなかったようだ。／ある組合員の話では、社内で安保法案賛成の署名を取り付けることが仕事上のノルマになっている会社もあるとか。署名を

させた人も、いつか厭戦ムードになつたときには、あれは無理矢理させられたことなんだと、自分に言い訳するのじゃない。原草むさお